

## Ⅱ. 船橋市生涯學習基本構想



## 1. 基本理念

生涯をとおして自分らしく学び続け、  
学びの成果を活かすことができる社会の実現を目指します。

教育基本法第3条において、「生涯学習」の理念は、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とされています。また、平成30年（2018年）に閣議決定された「第3期教育振興基本計画」においても、年齢、性別、国籍、経済事情、障害の有無等多様な人々の一人一人が互いの人格を尊重し、支えあいながら幸せに生きるとともに、社会で自らの役割と責任を果たし、生き生きと活躍できるようにしていくことが重要である旨が述べられています。

「生涯学習」は、個人の問題意識や関心をきっかけとして行われ、その学びの過程をとおして、個人の知的欲求の充足や生活の改善、人間としての成長、自己実現につながっていくことが期待されます。また、学びや活動をとおした、他者との助け合いや対話、議論により、自己肯定感や幸福感に加え、「つながり」の醸成も期待できます。

今日、日本では、これまでにない超長寿社会を迎えており、平成19年（2007年）に生まれた子供の半数が107歳より長く生きるとされる「人生100年時代<sup>2)</sup>」の到来が予測される他、「超スマート社会(Society5.0<sup>3)</sup>」の実現が目指される等、社会が劇的に変化しています。そのような社会をより豊かに生きるため、「生涯学習」の必要性がより一層高まっています。

平成27年（2015年）に国際連合本部において開催された「国連持続可能な開発サミット」の成果文書として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そのアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として宣言及び目標を掲げており、この目標が、令和12年（2030年）までの達成をめざす「誰一人取り残さない（leave no one behind）」、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の目標「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）<sup>4)</sup>」であり、その目標のひとつには「質の高い教育をみんなに -すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する-」も掲げられています。

こうしたことから、市では、すべての市民が、生涯をとおして学ぶことができ、その学びの成果を活かすことのできる「生涯学習社会」の実現を目指します。

<sup>2</sup> 「人生100年時代」 ロンドン・ビジネス・スクール教授のリンダ・グラットンが、自身の著書「LIFE SHIFT-100年時代の人生戦略-」の中で提唱した言葉。著書においては、世界で長寿化が急激に進行して100歳を超えて生きる時代が到来することを予測し、これまでとは異なる新しい人生設計が必要になると述べている。

<sup>3</sup> 「Society5.0」 サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く新たな社会を指す。

<sup>4</sup> 「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」平成13年（2001年）に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された令和12年（2030年）までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことで、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものである。17のゴールと169のターゲットから構成される。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



※SDGs ポスター 国際連合広報センターWeb サイトより

## 2. スローガン

### 輝け！「船橋の みんながもっている 一番星」

第一次一番星プランにおいて、「生涯学習の目指すもの」として「輝け！『船橋の みんながもっている 一番星』」を設定しました。

「人々が生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会をめざしていく必要がある。そうした社会の実現のために、生涯学習をとおして、一人一人が一番星となって光り輝き、その一人一人の輝きが夜空の満点の星のように、まち全体を明るく輝かせる。一人一人が生き生きと光り輝くこと、そしてその輝きが輪となって地域・社会全体に広がること」を願って設定されたもので、第二次一番星プランにおいても継続して使用しており、第三次一番星プランでは、スローガンとして位置づけました。

## 3. 目標

基本理念の実現を目指すにあたり、2つの「目標」を設定しました。第三次一番星プラン全体の成果の検証にあたっては、この「目標」の目標値に対する実績を使用します。

推進計画では、この「目標」を達成するための「基本施策」「施策」「取組」を整理しています。

### I. 継続して何かを学んだり、活動したりしている人の割合の向上

【現状値】（令和元年(2019年)度）

49.2%



【目標値】（令和13年(2031年)度）

60.0%

※「生涯学習に関するアンケート<sup>5</sup>」より

### II. 学びの成果を自分以外のために活かす人の割合の向上

【現状値】（令和元年(2019年)度）

12.7%



【目標値】（令和13年(2031年)度）

23.0%

※「生涯学習に関するアンケート」より

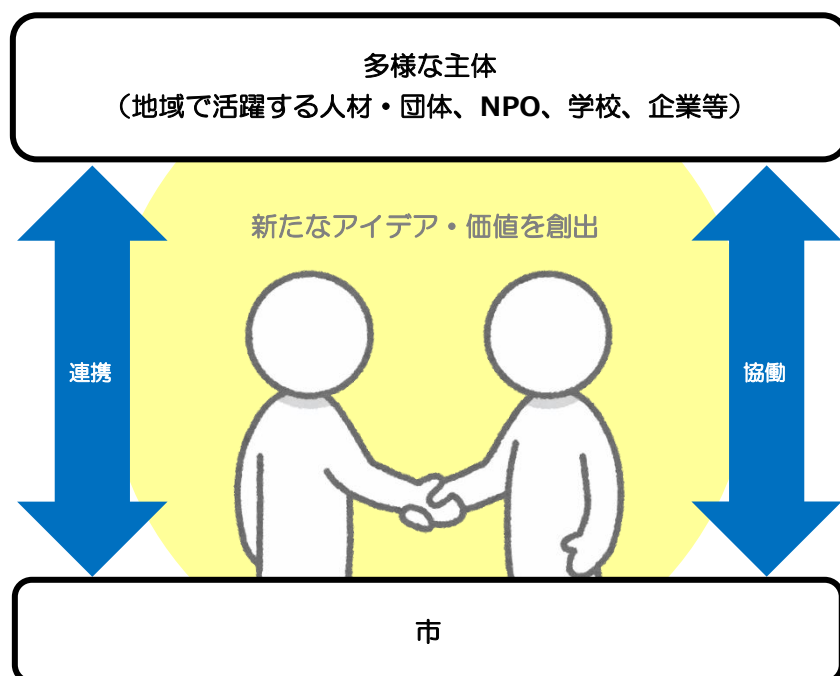
<sup>5</sup> 「生涯学習に関するアンケート」第三次一番星プラン策定の基礎資料を収集するため、令和元年7月に無作為抽出した満18歳以上の市民3,000人を対象として実施したアンケートのこと。結果の概要は15～32ページ、調査概要と調査票は巻末の参考資料に掲載している。

## 4. 基本姿勢

### 多様な主体との連携・協働

「目標」の達成を目指し、推進計画で様々な施策を展開するにあたって、企業や大学、個人、団体等、多様な主体と連携・協働することにより、これまでになかったアイデアや価値が生まれることが期待できます。

このことから、「多様な主体との連携・協働」を「基本姿勢」として定め、地域で活躍する人材・団体、NPO、大学を含む学校、企業等、様々な主体と、対等な関係で、それぞれの強みを活かしながら連携・協働していきます。また、それにあたり、より参画しやすい仕組み等を検討し、整備・運用していきます。



多様な主体が参画しやすい仕組みを整備・運用し、積極的に多様な主体と連携・協働